

演劇・ダンス事業

演出家 森田雄三 解体シンポ シリーズ 森田清子ワークショップ

『家族の風景 2019』

～ 演出家 森田雄三の創作メソッドによる現代社会の家族探し～』

故 森田雄三氏が実践し続けたワークショップを新たな試みで再開！

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当センターのご利用および企画運営にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

神戸アートビレッジセンター（KAVC）の演劇・ダンス事業では、演出家 森田雄三 解体シンポシリーズ 森田清子ワークショップ『家族の風景 2019 ～演出家 森田雄三の創作メソッドによる現代社会の家族探し～』を開催する運びとなりました。

2018年10月に逝去された森田雄三氏は、1996年以来、全国各地で「演劇ワークショップ」や「身体文学」といった他に類を見ない創作活動を展開してきました。その創作活動は、仕事や家事に多忙で、どちらかと言えば演劇や文学とは無縁の日々を過ごす巷の人たちを対象としており、神戸でも20年以上に渡り継続して演劇ワークショップを行ってきました。当センターでもこれまで「演出家 森田雄三 解体シンポ」と題して継続的にワークショップを開催しています。

この度、森田氏が実践し続けた創作メソッドを踏まえ、演劇プロデューサーであり、創作のパートナーでもあった森田清子氏をナビゲーターに、新たな演劇ワークショップが始まります。

つきましては、報道関係者の皆様方におかれましては、ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、情報掲載のご検討をいただきますと共に、今後とも本企画の広報にあたりご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



演出家 森田雄三 解体シンポ シリーズ 森田清子ワークショップ

『家族の風景 2019 ～演出家 森田雄三の創作メソッドによる現代社会の家族探し～』

日時：5月25日（土）、26日（日）両日とも13:00～17:00

会場：神戸アートビレッジセンター 1F KAVC ギャラリー

参加費：各日 一般 1000円、U18(18歳以下)500円

ナビゲーター：森田清子（イッセー尾形・ら株式会社代表取締役社長、NPO ららら理事長、楽ちん堂女将）

ファシリテーター：石田香織（神戸アバンギャルズ、作家）、妙嶋誠至（神戸アバンギャルズ、作家、演出家）

主催：神戸アバンギャルズ

共催：神戸アートビレッジセンター（指定管理者：公益財団法人神戸市民文化振興財団）、NPO 法人ら・ら・ら

助成：公益財団法人神戸文化支援基金

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター（指定管理者：公益財団法人神戸市民文化振興財団） 担当 竹下・野澤

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

演劇・ダンス事業

演出家 森田雄三 解体シンポ シリーズ 森田清子ワークショップ

『家族の風景 2019』

～ 演出家 森田雄三の創作メソッドによる現代社会の家族探し～

森田雄三の演劇はいわゆる「お芝居」とは違う。20年間森田雄三の演劇ワークショップに参加してきたけれど、私たちは演技は出来ない。何かの手違いでどこかの劇団に客演みたいなどになっても、書かれた台詞を暗記して熱演するなんてできる気がしないし、足を引っ張るだろうな。

じゃあ、20年も何を習っていたのか？という「思い出すこと」だったと思う。

「芝居しないで。ただ、そこに立てばいいだけだ」と森田雄三は繰り返した。

その人の、その時の声色、目線、座り方、間のとりかた、笑い声、セリフ。追われるように送ってきた日々の中にその「思い出すこと」はある。普通の人々がつまらない出来事すぎて意識して思い出すことなんてしない事柄こそ宝の山なのだ、とワークショップに参加するたびに実感する日々でした。

森田雄三が昨年逝去し、もうあの宝の山は消えてしまうのかと大きな喪失感が参加者たちの胸にありました。が、しかし、消えません。森田雄三の創作パートナーであった森田清子を演出に迎え、森田雄三がワークショップを始めた神戸アートビレッジセンターにて新たに始動します。ぜひ、一緒に自分の宝の山を発見しましょう。お立ち会いください。

神戸アバンギャルズ一同

<ナビゲーター・ファシリテーター プロフィール>



森田清子（もりた・きよこ）

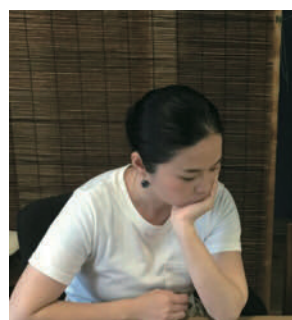
桐朋学園芸術短期大学卒業。

当時19才のイッセー尾形と出会い、45年間に480作品以上を作った森田雄三と共に、イッセー尾形から株式会社の代表取締役社長として独自のシステムで国内外を興行した。

また日本で全く無名のアルス・ヴィタリス、メレット・ベッカー、マックス・ラーベなど海外アーティストを招聘し他に類のない企画を成功させる。

2年前に脳溢血で倒れた森田雄三を二人きりで居宅介護し、葬式の概念を覆すフェス形式で賑やかな見送りをして話題になる。

現在、世田谷区野毛にある「楽ちん堂」を拠点に、演劇や文学を通して子育てや老後、障害者の問題に取り組み、演劇や文学の持つ可能性を広げながら、人と人との新しい関係づくりを模索し発信している。



石田香織（いしだ・かおり）

兵庫県生まれ。神戸市在住。1996年神戸アートビレッジセンターにて行われた演出家森田雄三のワークショップに参加。創作集団「アバンギャルズ」のメンバーとなり、会社勤務のかたわら森田雄三に創作を師事する。10年勤務した会社を退職したのをきっかけに小説を書き始め、2017年、『きょうの日は、さようなら』（河出書房）で作家デビュー。2018年10月には、『哲司、あんたのような人間を世の中ではクズと呼ぶんやで』を出版。



妙嶋誠至（たえしま・せいじ）

近畿大学演劇科で4年、ルコック演劇学校で2年、森田雄三演劇ワークショップで20年演劇を創作する。現在、民間総合福祉施設「楽ちん堂」（東京世田谷）にて、身体、知的、精神障がい、健常者、幼児、老人、国籍、などの垣根をとっぴらった劇的発表会を施設長森田清子と共に毎月開催中。

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター（指定管理者：公益財団法人神戸市民文化振興財団） 担当 竹下・野澤
 〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14 TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。